



NIE
考えるいま・未来



初のオンライン形式となった昨年のNIE全国大会（日本新聞協会主催）ですが、NIEに取り組む小中高の先生による様々な授業報告で注目されたのが都立荻窪高校の代田有紀教諭の事例でした。

倫理「青年期」の単元を学ぶ3年生の授業で、本紙記事「『大人』って何？ 成人18歳、改正民法成立」（2018年6月14日付朝刊社会面）を活用。「何ができたら大人か？」という問いに対する女子高校生（15）と102歳の男性の意見を読んでもらったうえで、生徒一人ひとりにも自分なりの答えを考えてもらったそうです。授業を通して、新聞は「紙面を通じて他者と対話できるツールになる」ことや新聞を使って授業をする意義を実感したといえます。

紙面通じ対話のツールに

実は私たちも大会1カ月前の昨年10月23日、神奈川県立高校で同じようなアプローチの出前授業をしていました。授業当日の本紙朝刊「声」欄から、朝鮮初級学校生（12）と聴覚障害のある特別支援学校教員（38）の投稿を紹介し、「新聞を読むと、いろいろな人に会って話を聞くのが仕事の新聞記者でもなかなか接することのない人の声に耳をかたむけることが可能になります」と話しました。「自分の心のなかで投稿者と対話してみてください」。言いたかったのはそういうことです。

生徒からは後日、次のようにつぶられた感想が寄せられました。「会ったことのない職業や立場の人が投稿した文章を読めるというのは確かにすごい。これからは（新聞を）読んでみたい」。折しも新学習指導要領は「主体的・対話的で深い学び」を求めています。さまざまな人たちの意見が責任を伴う実名で掲載される新聞も一役買うことができるにちがいません。匿名性の高いネット情報と違う点です。